

精神障害リハビリテーション論

《履修上の留意事項》精神保健福祉士国家試験を受験予定の者は必ず履修すること。

《担当者名》○鈴木 和 suzuki_w@hoku-iryu-u.ac.jp 八木 こずえ 向谷地 生良(客員)

【概要】

本講義では精神障害リハビリテーションの歴史、概念を学び、現在、日本の精神保健医療福祉分野で活用されている領域におけるプログラムの目的、方法、効果などについての基本的な知識と理解を得ることで、学生が精神保健福祉実習の現場で活用されているプログラムの理解と参加が促進され、学習が深まることが期待される。

【学修目標】

わが国の精神障害リハビリテーションの歴史的背景、及び概念を理解する。
精神障害リハビリテーションが地域、病院でどのように展開されているか、そこに精神保健福祉士がどのように関わっているかを知る。
精神障害リハビリテーションのプログラムの内容について知識を深め、実践についての具体的なイメージを形成し、実習の援助場面で活用できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション 精神障害リハビリテーションの定義	履修上の注意 リハビリテーションの歴史的背景と概念、権利の回復を知る。	鈴木
2	障害者リハビリテーションの基本原則 リカバリーの定義	基本原則について理解を深める。 リカバリーの概念について知る。	鈴木
3	精神科リハビリテーションとソーシャルワークの関係	障害とニーズ、個人・環境への介入について知る。 人権・権利回復について説明できる。	鈴木
4	精神科リハビリテーション実践	医学的、職業的、社会的、教育的リハビリテーション、それぞれについて知り、その違いを説明できる。	鈴木
5	精神科リハビリテーションの構成	精神障害リハビリテーションの対象とチームアプローチについて理解する。	鈴木
6	精神科リハビリテーションの構成と展開プロセス	ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング(リハビリテーションのプログラム選択)、リハビリテーションの実施、モニタリングと評価、という流れを知り、それぞれについて説明できる。	鈴木
7	医学的リハビリテーション(1)	認知行動療法や行動療法などの各種療法について理解する。	鈴木
8	医学的リハビリテーション(2)	医療職からみた医学的リハビリテーションの実際を知り、その必要性について自分の意見を述べるができる。	八木、鈴木
9	医学的リハビリテーション(3)	福祉職からみた医学的リハビリテーション(特に依存回復プログラムやデイ・ケアプログラム)について知り、その必要性について自分の意見を述べるができる。	澤口 篤(特別講師) 鈴木
10	職業的リハビリテーション(1)	就労準備プログラム、援助付き雇用プログラム、IPSモデルなどについて知り、説明することができる。	鈴木
11	職業的リハビリテーション(2)	復職支援プログラム、就労定着プログラムについて知り、説明することができる。	鈴木
12	社会的リハビリテーション	SSTや心理教育プログラム、WRAP、生活訓練・地域移行プログラムなどについて知る。	鈴木
13	教育的リハビリテーション	特別支援教育プログラムや障害支援プログラムについて知る。	鈴木
14	精神障害リハビリテーションの動向と実際	当事者主体プログラム(当事者研究)やピアサポートについて知り、その必要性について自分の意見を述べ	向谷地、鈴木

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		ることができる。	
15	世界におけるリハビリテーションの動向と実際	対話実践やオープンダイアログ、諸外国で行われている当事者研究について知る。	向谷地、鈴木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題レポート100%

【教科書】

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 「最新 精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論」

【参考書】

その都度紹介する。

【備考】

この科目は、精神保健福祉士国家受験資格取得のための「精神障害リハビリテーション論」に該当する。

【学修の準備】

精神保健福祉分野のフィールドワーク（学会、研究会、セミナーなどの参加）を積極的に行うことが望ましい
予習は、次回の授業で行う学習内容について読み込み、理解できたことや疑問点などを明確にしておくこと（予習2時間）。
復習は、授業で取り上げた学習内容について振り返り、理解を深めること（復習2時間）。

【ディプロマポリシー（学位授与方針）との関連】

DP2 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP3 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4 保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木和（社会福祉士・精神保健福祉士） 八木こずえ（看護師） 向谷地生良（精神保健福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

精神科病院、就労支援の現場での臨床経験に基づき、グローバルな視点から個人の自立のテーマに至るまで、精神障害者支援の実践的な知識を講義する

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している